



バブル時代から今日への経済の変遷

令和6年4月2日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

為替レートと、企業業績におけるバブルへの憧憬は、今日の先端産業におけるバブルと類似する。しかしすべて技術という新しい要求における世界は、さらなる未来を模索しているのである。

これらは今日の財政赤字と貿易環境は、未来における変化をさらに有するものである。これらは今日生まれ行く新しい技術と現実未来という自己選択を有するのである。

これらは先端性が未来を有することは常なる現実なのである。これらの独占は、世界の現実なのである。

これらは健全な税制と経済政策を運営における自国の構築は、必要性なのである。

これら自己基盤が、未来という新しい現実の基盤としてそれを可能とできるためである。

これら飛躍する世界が、新しい技術における新しい世界の約束を有するのである。

これらは貿易構造の変化は、経済の構造の変化を表すものである。それらはグローバリゼーションという現実における新しい世界の現実なのである。

また国家財政は、経済政策とともに、自国の現実の決定を有するものである。

これらは国家の健全性の構築は、正しい自己財政政策と、経済の運営を基盤として、初めて未来という現実への参加を実現できるのである。

これらは自己の構造転換を求め、未来という現実への自己の健全性という基盤を要求することは真実なのである。

これらは時代性という新しい現実への自己選択なのであり、既存社会やシステムから新しい自己の現実への転換は未来という選択における正しい必要性なのである。

